

# 東北大学国文学会

令和5年度研究発表大会 令和4年11月5日(日) 於 東北大学文学部

松橋奈々「太宰治「兄たち」論」

五十嵐爽夏「室生犀星「火の魚」論」

土田沙輝人「『保元物語』における源為朝一主に鎌倉本の記述に着目して」

飯野向日葵「まなざされない蠅—横光利一「蠅」論—」

川上優理子「宮沢賢治「貝の火」における「見る」こと—翻弄されるホモイと家族を視座に—」

張怡「永井荷風「勲章」における楽屋—自分の過去を語る爺さんを手がかりに—」

令和4年度研究発表大会 令和4年11月6日(日) 於 東北大学文学部(オンライン)

佐藤俊介「『八重葎』の和歌をめぐる表現—小倉山の紅葉狩りを糸口にして—」

小豆畑美友「江戸川乱歩『幽霊塔』論—翻案と日本化を視座として—」

石川拓音「川上弘美『神様 2011』論—それでも<あわい>を散歩してゆくこと—」

令和3年度研究発表大会 令和3年11月14日(日) 於 東北大学文学部(オンライン)

徳橋 香菜 『平家物語』における平清盛の記述のゆらぎ—王法、仏法にかかわる批判と容認の間で—

安原 ゆり香 『平家物語』における源頼朝挙兵譚の考察—以仁王の令旨と文覚の行動に着目して—

野村 陽奈子 小川洋子「ブラフマンの埋葬」における「死」の問題

令和2年度研究発表大会 令和2年11月15日(日) 於 東北大学文学部(オンライン)

笠谷 美弥 『今とりかへばや』の女君論—宇治の若君との別離をめぐる—

長尾 真優 『苔の衣』冬巻論—住吉の姫君について—

高田 理香 夏目漱石『門』の研究—『門』における労働について—

小野 佑華 谷崎潤一郎『春琴抄』論—「想像」を導く語り注目して

森 琢磨 中島敦「狼疾記」論—身体に作用する想像力

石川 拓音 川上弘美「神様」論—「わたし」の語りに着目して—

令和元年度研究発表大会 令和元年11月9日(土) 於 東北大学文学部

丁 舒文 『古今和歌集』における「世の中」

今井 啓介 『落窪物語』における報復描写

翁 筱青 源氏物語に流れる時間の糸口—「いづれの御時にか」に着目して—

邵 暁晨 『更級日記』における仏教記事の再考—「等身に薬師仏を造りて」を起点として—

鳥居 万由子 中原中也における詩の理念—「ゆたりゆたり」という表現に注目して—

平成三十年度研究発表大会 平成30年11月17日(土) 於 東北大学文学部

新海 颯大 『源氏物語』の夕顔の女君—光源氏の回想を手がかりに—

越田 健介 『我が身にたどる姫君』論—前齋宮と女帝をめぐって—  
米山 美希 村山槐多『槐多の歌へる』論—霊・肉・心をめぐって—  
村上 瑠 芥川龍之介「河童」論—狂気を視座として—

**平成二十九年年度研究発表大会 平成29年11月11日(土) 於 東北大学文学部**

天野 聖太 『万葉集』春の訪れを詠む歌  
松本 拓也 幸田露伴「対鬮體」論—異稿の比較を通して—  
菊地 仁美 泉鏡花「胡蝶之曲」論—作品の構造を中心に—  
片岡 彩乃 横光利一『花花』論—伊室の在り方をめぐって—

**平成二十八年度研究発表大会 平成28年11月12日(土) 於 東北大学文学部**

永峯 涼子 『萬葉集』春の訪れを詠む歌  
三浦 沙由里 『蜻蛉日記』上巻の構成—町の小路の女の周辺に注目して—  
岡 佑布子 『十訓抄』における詠歌—『大和物語』との比較を通して—  
柴田 直美 『後三年記』における源義家—造型の多元性に着目して—  
赤池 深雪 志賀直哉「范の犯罪」論—范の弱さをめぐって—

**平成二十七年度研究発表大会 平成27年11月15日(土) 於 東北大学文学部**

西村 由希 『伊勢物語』の土地と和歌  
福土 陽子 『源氏物語』空蟬の宿世意識  
石川 里奈 『狭衣物語』女二宮の手習歌—地の文の表現を手がかりにして—  
春原 志織 星の表現史—『建礼門院右京大夫集』と京極派の和歌に着目して—  
古谷 仁美 『平家物語』における別れの表現—平維盛をめぐって—  
廣瀬 航也 永井荷風「監獄署の裏」論—風景描写の〈方法〉に着目して—  
出貝 香奈江 谷崎潤一郎「盲目物語」論—盲人の語り手に注目して—

**平成二十六年年度研究発表大会 平成26年11月15日(土) 於 東北大学文学部**

廣中 実穂 『万葉集』の夏の歌  
滝沢 美子 『蜻蛉日記』論—道綱の仲介者としての機能に着目して—  
加藤 紫穂里 『義経記』における泣くことの意味  
大島 みちる 志賀直哉「或る男、其姉の死」論—語り手をめぐって—  
阿部 美菜子 川端康成「片腕」における「私」—その思考の動きをめぐって—  
村上 謙造 戦後短歌における「方法論争」—「調べ」の問題を視座として—

**平成二十五年年度研究発表大会 平成25年11月16日(土) 於 東北大学文学部**

佐藤 友久 大岡昇平『花影』論—葉子の生と死をめぐって—  
星野 咲希 梶井基次郎「櫻の樹の下には」論—想像の問題を中心に—

北島 優子 『雫に濁る』をめぐる一考察―「めでたし」に着目して―  
福地 美乃 『枕草子』における祭―「見物は」「なほめでたきこと」を中心として―  
小澤 恵里奈 『枕草子』の表現をめぐる一考察―「五月の御精進のほど」を中心に―  
荒井 桂 山上憶良の子をめぐる歌

**平成二十四年度研究発表大会 平成24年11月10日(土) 於 東北大学文学部**

菅原 しおり 『落窪物語』における継母  
山形 茉以 『松浦宮物語』における「契」をめぐって  
于 楽 『平家物語』において乳母子が担うもの―その過剰性に着目して―  
鈴木 望 江戸川乱歩「鏡地獄」論―レンズから鏡へ―  
櫻村 利彦 「真理先生」との対話―武者小路実篤の方法について―

**平成二十三年度研究発表大会 平成23年11月12日(土) 於 東北大学文学部**

加藤 めぐみ 『平家物語』における父子間の恩愛―そこにあらわれる葛藤をめぐって―  
添田 千尋 隠岐本『新古今和歌集』論―後鳥羽院詠歌の削除をめぐって―  
水沼 恵理 『義経記』論―演技、仮装、遊戯に着目して―  
笠間 はるな 樋口一葉「やみ夜」論―「女主」としてのお蘭をめぐって―  
伊澤 亮太 『行人』論―〈構成の破綻〉をめぐって―  
芋田 由樹 川上弘美「蛇を踏む」論―結末部をめぐって―

**平成二十二年度研究発表大会 平成22年11月13日(土) 於 東北大学文学部**

橋本 智史 木梨軽太子物語攷  
小野 貴裕 薫の道心―宿木巻を起点にして―  
荒川 遙 『更級日記』における「竹芝伝説」をめぐって  
阿部 友紀 『朝顔の露』論―朝顔の上の心の変移をめぐって―  
大場 道子 『義経記』における義経と弁慶―涙の意味の検討を端緒として―  
黒澤 佑司 テキストと批評をめぐる動態―嵯峨の屋おむろ「くされたまご」を中心として―

**平成二十一年度研究発表大会 平成21年11月7日(土) 於 東北大学文学部**

森下 真帆 『源氏物語』における服飾の色彩表現―玉鬘巻の衣配りを中心に―  
高橋 美希 童女としての紫の上―物語における機能をめぐって  
大平 千波弥 『平家物語』において和歌の担うもの―贈答歌に着目して―  
西田 結実 「聖戦下の新津軽風土記」―太宰治『津軽』における戦争―  
朝岡 結季子 「取引」から〈祈り〉へ ―村上春樹「神の子どもたちはみな踊る」論―

**平成二十年度研究発表大会 平成20年11月20日(土) 於 東北大学文学部**

中野渡 信哉 「御子既に崩りましぬ」 ―『古事記』仲哀記の論理―

曾我 夏深 『蜻蛉日記』における月  
蔡 雅如 『六百番歌合』の「野」と四季  
星名 千夏 「本意なき」御位 — 『とりかへばや物語』における女春宮の位相—  
島 南風 落書の力 — 『太平記』考—  
阿部 真帆 「画工」のまなざし — 『草枕』論—  
黒澤 佑司 「評」の行方／「読者」の行方 — 嵯峨の屋おむろ「薄命のすゞ子」論

**平成十九年度研究発表大会 平成19年11月10日(土) 於 東北大学文学部**

中野渡 信哉 内大臣の今姫君・近江の君考 — 「にぎはらし」き姫君の位相—  
渋谷 都絵 昔のあとをたづぬれど — 『源氏物語』螢巻の物語論—  
渡部 南 『大鏡』における歴史叙述の姿勢 — 〈あまりなること〉に着目して—  
庭野 紗江 「わびし」き前齋宮 — 『我身にたどる姫君』に関する一考察—  
柿沼 高明 『世間胸算用』論 — 手法という観点から—  
藤倉 琢哉 「めんどなさいばん」 — 宮沢賢治「どんぐりとやまねこ」試論—  
韓 吉子 樋口一葉「やみ夜」論 — お蘭の「恨み」を起点として—

**平成十八年度研究発表大会 平成18年11月11日(土) 於 東北大学文学部**

寺窪 健志 家持の恨みの歌 — 越中の立夏と霍公鳥—  
菊池 勝 「花たちばな」と「桜花」 — 『伊勢物語』六〇段・六二段考—  
小林 祐介 「なつかしげ」なる六条御息所  
岸本 洋輔 半井本『保元物語』論 — 表現における規制の弱さに着目して—  
楊 淑容 芥川龍之介「開化の良人」論 — 人物像を中心に—  
仁平 政人 横光利一の〈戦中／戦後〉 — 「微笑」からの視界—

**平成十七年度研究発表大会 平成17年11月20日(土) 於 東北大学文学部**

・安岡 朋子 赤人の白い雲  
阪倉 千香子 夕霧の人物像をめぐって — 「まめ人」の垣間見—  
鈴木 絵美子 思ひなしのいますこしいつかしう — 冷泉帝と玉鬘—  
癸生川 知香 『今昔物語集』試論 — 嗅覚表現を中心に—  
許 晴舒 「容貌のさせし業」 — 樋口一葉「われから」における美と金銭の論理  
鈴木 雅晶 「或る男、其姉の死」の語り — 志賀直哉における「形式」の問題—  
江 明瑾 〈理想〉の行方 — 太宰治「竹青」における『聊齋志異』の受容—

**平成十六年度研究発表大会 平成16年11月20日(土) 於 東北大学文学部**

芹澤 卓 『萬葉集』における「照る」日の歌  
曾我 江梨子 強き心をしひて加へたればなよ竹の心地して — 空蟬試論—

菅野 雅子 昭和五年の横光利一 ——「機械」における〈私〉の位置——  
得野 誠久 『義経記』における静 ——巻第四の登場場面を中心に——  
佐野 智子 山東京伝『桜姫全伝曙草紙』論 ——視点の多角性をめぐって——  
入山 愛 島崎藤村「水彩画家」論 ——ハウプトマン『寂しき人々』を視座に——  
王 嘉臨 「クローディアスの日記」という方法 ——ハムレットの狂気をめぐって——

**平成十五年度研究発表大会 平成15年11月8日(土) 於 東北大学文学部**

鈴木 真弓 『萬葉集』巻十一の三首一組問答歌 ——二つの問答——  
高倉 聖子 落窪の北の方 ——感情表現を手がかりに——  
能美 絵理子 笑う未摘花  
菅野 寛子 思ひ隔てずかなし ——「母」としての紫の上——  
俵谷 麻希 死ぬる覚悟 ——『曾根崎心中』における死の構図——  
川田 政通 『仮面の告白』試論 ——「私」の位置をめぐって——  
工藤 武大 村上春樹『風の歌を聴け』論 ——「僕」・鼠・ハートフィールド——

**平成十四年度研究発表大会 平成14年11月16日(土) 於 東北大学文学部**

横山 江梨子 防人歌と「大君」  
猪股 幸一郎 「紀有常が女」から「御達なりける人」へ  
——『伊勢物語』における『古今和歌集』詞書改変の意図——  
深瀬朋子 浮舟の居場所  
松井 泰道 女ノ身ト変ジテ謀リ給ヒケル ——『今昔物語集』巻第十七第三十三を読む——  
熊谷 徳子 『世間胸算用』における笑い  
西條 静恵 中島敦「文字禍」試論 ——結末の死をめぐって——  
高橋 啓佑 オリユウノオバの路地 ——中上健次『千年の愉楽』論——

**平成十三年度研究発表大会 平成13年11月17日(土) 於 東北大学文学部**

松谷 利宏 柿本朝臣人麻呂歌集歌の表現  
山中 桂子 職の御曹司の定子 ——『枕草子』試論——  
鈴木 早苗 「春」から「桜」へ ——光源氏における紫上——  
熊谷 陽子 一つとして、こゝろにかなはずといふ事なし ——一覚一本『平家物語』の後白河院——  
加藤 隆史 「桜の森の満開の下」論 ——男の消失をめぐって——  
仁平 政人 「あざ」をめぐる物語 ——川端康成『千羽鶴』論——  
高橋 由貴 停滞する主体 ——大江健三郎「セヴンティーン」における〈政治〉と〈性〉——

**平成十二年度研究発表大会 平成12年11月18日(土) 於 東北大学文学部**

中坪 弘宣 『古事記』における須佐之男像 ——「僕者無邪心」——  
関口 忠慶 野宮の別れ ——「賢木」巻とその前後——

久保 堅一 薫と八の宮と姫君と  
斉藤 由香里 常弄し繩ならして —『好色一代女』と「琵琶行」—  
森岡 卓司 「熱風に吹かれて」の方法 —谷崎潤一郎に於ける夏目漱石—  
高橋 誠 萩原朔太郎「風船乗りの夢」論 —「昇りゆく風船」のゆくえ—  
谷島 潤一 太宰治「ダス・ゲマイネ」論 —佐野次郎をめぐる—

**平成十一年度研究発表大会 平成11年11月6日(土) 於 東北大学文学部**

正満 大佑 『萬葉集』東歌における「かなし」  
伊佐 斎 よくこそ卑下しにけれ —明石の御方の人物像をめぐる—  
竹内 敦 『真珠夫人』における復讐の構図 —瑠璃子像の統一を起点として—  
熊谷 厚志 『源氏物語』の語り —夕顔巻を中心に—  
呉 起燾 南都炎上と清盛 —『平家物語』諸本の異同—  
三浦 一朗 稚き歎き —「菊花の約」と古典学—  
竹浪 直人 西那須行の汽車 —徳田秋声『徼』の結末をめぐる—

**平成十年度研究発表大会 平成10年11月14日(土) 於 東北大学文学部**

大木 幸子 ものづつみしたる人 —未摘花像をめぐる—  
安部 理恵 伏姫の死をめぐる —『南総里見八犬伝』試論—  
櫛引 裕雄 『行人』についての一考察 —二郎と卑怯—  
逸見 大介 『萬葉集』比喻歌の恋愛表現  
李 美淑 『蜻蛉日記』の構造と意識 —「つれなし」「なほもあらじ」を指標として—  
河合 隆司 芭蕉涅槃 —『枯野抄』試論—  
濱家 博幸 『蓼喰ふ蟲』の構造

**平成九年度研究発表大会 平成9年11月22日(土) 於 東北大学文学部**

安藤 圭子 しのぶの乱れや —帚木巻の藤壺—  
渡邊 優子 祇王・仏御前・千手前 —『平家物語』における白拍子—  
野口 哲也 「歌行燈」における〈光〉と〈芸〉 —謡曲「海人」を視座として—  
菊地 美奈子 『源氏物語』における「なつかしき」女性の系譜 —「うるはし」との対比から—  
遠藤 和一 夷 —中世文芸における奥州—  
高橋 秀太郎 消えたスワ —「魚服記」試論—  
野坂 昭雄 尾崎翠『第七官界彷徨』論 —「非正常心理」の世界をめぐる—